

編集後記

むなかた電子博物館 紀要委員会
編集長 宮川 幹平

むなかた電子博物館紀要第6号は難産であった。

「電子博物館によるデジタル紀要」と名乗って恥ずかしくないように、引用情報や電子博物館内の当該記事、外部サイトへのリンクをはじめ、音声・動画情報の組み込み、レイアウトの再構成、さらには電子書籍化など、アイデアこそ数多く浮かびはしたもの、いまここでそのすべてを実現するには、編集部の準備が不足していることを認めざるを得なかった。この編集活動の遅れに起因し、結果として、いくつかの論文・記事の掲載見送りや、公開直前になっての構成変更など、最後まで多くの方にご迷惑をおかけすることとなってしまった。大きな反省点である。今後は、論文や記事をご投稿頂く皆様ともよく議論・相談し、単に目新しいからではなく、デジタル紀要として有益な機能とは何なのかをよく考え、漸進的に改善していきたいと考えている。事実、今号も、劇的とはいかないまでも、前号よりも着実に進化・成長している点があると自負している。

なお、本来第6号に掲載する予定であったいくつかの記事については、新たな視点による記事を加え、第7号にて特集を組むことを計画している。是非ご注目頂きたい。

最後に、本紀要に論文や研究資料をご投稿頂いた方々、インタビューに快く応じて頂いた「Work Group ひこうき雲」代表の中村寿子様、そして、MIS 九州株式会社 西様をはじめとした、本紀要の編集や発行に関わって下さった全ての方々に深く感謝申し上げる。